

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月11日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600084		
法人名	社会福祉法人 大月町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム のんびり館		
所在地	〒780-0321 高知県幡多郡大月町春遠624		
自己評価作成日	平成23年4月26日	評価結果 市町村受理日	平成23年7月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは自然に恵まれた環境の中で、馴染みの人々と一緒に毎日入居者が笑い、楽しくのんびりとした生活ができる「家」であることを目指し、日々の支援に取り組んでいる。併設の有料老人ホームの利用者や地域住民と祭りなどを通して交流したり、郵便局の職員の見守りなどの協力がある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3992600084&amp;SCD=320&amp;PGD=39">http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=3992600084&amp;SCD=320&amp;PGD=39</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成23年6月23日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山野に囲まれた静かな環境の中、小学校跡を活用して昨年7月に開設し、法人の有料老人ホームも併設されている。また、敷地内の保育所跡は地域の集会所になっており、グランドでは祭りなどのイベントが催され、地域住民との交流の場ともなっている。事業所ではこうした環境を活かして、イベントなどの情報発信を計画している。管理者と職員は、利用者一人ひとりの理解に努め個別支援に取り組んでおり、利用者の意向を聞きながら、馴染みの商店に買物に出かけたり、ふるさと訪問などを通してこれまでの暮らしが継続できるよう支援しており、利用者も明るい雰囲気の中で過ごしていることが窺える。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: のんびり館

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすいところに理念を掲示するとともに、毎日のミーティングで勤務職員全員で理念を復唱し、実践できるよう心がけている。	開設時に作成した事業所独自の理念があり、運営方針を定め、朝の申し送り時に復唱している。なお、理念について話し合う機会を持つことも望まれる。	サービスの指標となる理念については常に職員会等で振り返り、職員と共有しながら実践につなげていくことを期待したい。
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内に地域の集会所があり、祭りや輪投げなどの行事に参加している。地域の方に散歩途中で挨拶を交わしたり、庭の畑での野菜づくりの助言や手伝いなどをしてもらっている。また、地元で獲れた野菜や紙細工用に古新聞の提供があるなど、頂き物も多い。	地区会に加入している。地域の行事に参加したり、体験学習を通して児童、生徒と触れ合う機会を設けている。また、併設の有料老人ホームの利用者との交流や、地域住民に野菜作りを習ったり、お裾分けをもらうなど、地域の一員として交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の小中高校生の介護体験学習の場としたり、シルバーボランティア、民生委員の方々と一緒に過ごす中で認知症に関する理解を得ようとしている。また、運営推進会議を通して理解を求めている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの報告や課題等について話し合い、家族や地域の方の意見を基にサービス向上に努めている。	利用者の状況や運営内容について報告するとともに、災害対策や終末期の対応などの課題についても議題にあげ、参加委員と意見交換をしている。議事録は欠席の家族にも送付している。市町村の職員は多忙等もあって参加が少ない。	会議の運営に当たっては、行政分野の委員にもできるだけ参加してもらい、事業所の運営状況等を理解してもらうよう働きかけることを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター主催の地域ケア会議で現状を報告したり、事例検討も予定している。	町主催の研修会やケア会議を通して入居者に関する相談やケア内容について相談できる関係を築いている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束による身体的・精神的・社会的弊害についての理解を深め利用者が負担を感じることなく穏やかに過ごすことができるよう取り組んでいる。また、研修等にも積極的に参加し、その都度職員間で再確認している。	法人内の身体拘束に関する研修会に参加し、職員に伝達、周知し、身体拘束をしないケアを実践している。言葉による行動抑制についても日頃から留意し、気になることは管理者からカンファレンス等で伝えている。日中は玄関に施錠はせず、外出傾向のある利用者が出かけた際は、性格などにも配慮し距離をおきながら見守っている。地域住民の見守りの協力も得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会へ参加することにより、虐待に関する理解を再確認するとともに、日頃のケアや家族の面会時にも相互に注意し合っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業についてはパンフレットや事例等で勉強している。今後もホーム内での勉強会や権利擁護に関する研修会には積極的に取り組んでいく。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分に取って説明し、納得していただいている。また、昨年8月の第1回運営推進会議において事業運営の考え方等について協議している。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族の面会時や遠方の家族に請求書を送付する際には、利用者の近況報告とともに、ホームへの要請や気になることがあれば何でも意見等を出してもらうよう伝えている。	家族会づくりを働きかけているが結成までには至っていない。行事や運営推進会議の後で家族と懇談する機会を設けたり、面会時や便りの郵送時に何でも意見等を出してもらうよう働きかけるとともに、運営推進会議の議事録を送付するなど、工夫しているが、特に、これといった意見は出されていない。	家族の意向等の吸い上げに努めているが、家族は身内が世話になっていることから意見等を言い出し難いことを理解し、事業所開設1周年などを契機に意見を聞く機会をもうけるなどの工夫を期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日のミーティングや月1回の職員会で意見を聞いている。代表者も時々訪問し職員との意思疎通を図っている。	職員会や申し送りのほか、日頃からのコミュニケーションを図り、職員の意見や提案を聞いている。洗濯物干し場を整備するなど運営に反映させるとともに、法人に体制等についての相談もしている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人事務局の局長や次長は、職員と気軽に意見を交わし、要望や不満などないか気にかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を行うとともに、法人内外の必要な研修には積極的に参加するように勧めている。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新採用時には法人内のグループホームで研修し、職員同士で交流したり、法人内外の勉強会に参加し、事業所との情報交換等を通じてサービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人から不安や要望などについて聞き取りを行い、安心してサービスが受けられるよう信頼関係を築いている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に不安や要望がないか聞き、また、面会時には声をかけ、話をしやすいように配慮している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に必要な介護内容を検討したり、本人の状況に応じて他のサービスの利用について情報提供をしている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や洗い物などの家事を一緒にしたり、畑の作物の育て方をアドバイスしてもらうなど、お互いに助け合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話、手紙、ホーム便りなどで本人の状況を伝え、必要に応じて電話で話してもらったり、面会に来てもらうなど、共に支え合っていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた地区に出かけ、商店や美容院の方とのつながりを持続したり、面会が少ない家族には本人に電話してもらうなど関係維持に努めている。	地理的に友人等が訪れてくれるのは稀であり、利用者の希望に沿って馴染みの商店や美容院に出かけたり、家族の協力を得て外泊やふるさと訪問を行い、知人等と交流するなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者、口論になりやすい利用者など関係を把握し、食卓やリビングでの座る場所に工夫したり、時には職員が間に入って会話が弾むように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	町内のホームへ移られた方の面会に行き、様子などを伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントを行い、本人の希望や意向を聞いている。本人の意向がわかりにくい場合はできるだけ本人のペースを大切にしながら声かけをしている。	職員は生活歴等を念頭に置き、日々の利用者との会話や行動などから、その思いや希望を把握している。また、その時の状況に応じて買物などの声かけを行い、利用者の意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話や、家族、知人との面会時の話から生活歴や暮らし方などの情報を把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	おやつやの時間や週3日のレクリエーションの時間など、日々の関わりの中で心身の状態等の把握を行い、毎日の記録やミーティングで共有している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞き出し、できるだけ多くの職員が参加できる時間帯を選んで介護計画を立てている。見直しの時期がきていなくても本人の状況等に応じて随時計画を見直している。	日頃の関わりの中で利用者の意向を把握したり、面談や電話で家族の意見も聞くとともに、担当制によるモニタリングを毎月行い、3カ月毎のカンファレンスで計画を見直している。また、入院など利用者の状況の変化に応じて、その都度見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らし振りや計画に沿った実践内容を記録し、職員の気づきも含めた情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が面会に来れない事情がある場合にはふるさと訪問をしたり、家族が遠方で帰省先がない場合はホームで宿泊できるようにしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やシルバーボランティアとの連携や、消防署の協力による防災訓練、郵便局員の見守りなど、いろんな人々と協働しながら、利用者の暮らしを支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	町内の主治医との関係を継続してもらい、月1回の訪問診療以外にも体調面で不安があれば電話相談や必要時に応じて受診介助をしている。	利用者、家族の意向に沿ったかかりつけ医で受診している。定期診療は主治医の往診を受けており、専門医での通院介助は家族の対応を基本としている。受診結果は家族からの報告や主治医から指示等を受け、業務日誌や経過記録で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームに看護職がいないため、必要に応じてかかりつけ医や協力病院の看護師等と連絡、相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必要な情報交換を行い、入院中も家族と連絡をとりながら病院関係者と病状の把握や退院などに向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームには看護師の配置がなく、設備が整っていないため、終末期の医療に関してはできることが限られることを説明している。かかりつけ医にもその点を理解してもらい、重度化した場合はより連絡を取り合うようにしている。	入居時には医療機関と連携した支援について説明している。医療連携体制加算はなく、重度化等の指針も作成していないが、重篤のため入院した事例では、家族の負担軽減や精神面での支えなど、現在、事業所としてできる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で年1回消防署の協力による救急救命の勉強会を行い、参加できなかった職員に対しても伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を実施し、消火や通報、避難方法を理解している。地域の消防団との連絡体制も整っている。地震対策として非常食や飲料水を常備している。	消防署の指導を得て事業所の防災訓練を実施しているが、地域住民の参加、協力は得られていない。なお、運営推進会議を通じて地元消防団の事業所視察などの動きもある。災害時の食料等の準備はできている。	災害時には地域の協力が欠かせないので、地域の自主防災会活動について把握したり、運営推進会議で引き続き災害対策を話し合うなど、地域住民の協力を得た防災訓練の実現を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人が大事にしていることに注意しながら人格や尊厳が守られるような声かけを心がけている。	利用者の人格や個性を大切にする運営方針に沿って、日々のケアの場面で誇りやプライバシーを損なわない対応をしている。特に、聞こえに支障のある利用者のトイレ誘導などに留意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事内容や風呂の湯加減、入浴の順番など本人の好みを聞き出したり、散歩や屋外レクリエーションの行きたい場所を選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の好みや入浴時間、起床・就寝時間もできるだけ本人のペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品の購入補充や、希望に応じて美容院に行ったり、職員が毛染めの援助をするなど、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理(ごぼうのささがきや野菜の皮むき)や食器洗い、テーブル拭きなどその人のレベルに合わせて食事の準備や後始末をしている。利用者の状況に応じて食事中は職員がそばで声かけしたり、見守りながら楽しく食事がとれるようにしている。	利用者の能力に応じて食材の買出しに行ったり、調理の下ごしらえや準備、片付けなどを職員と一緒にしている。利用者は気の合う者同士で会話を楽しみながら食事をしたり、職員もさりげなく介助をしながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日水分や食事の摂取量を把握し、食事が低下した場合はうどんやおかゆなどに変更したり、おやつをプリン類などにしている。水分摂取も声かけや介助しながら支援している。栄養士資格のある職員が栄養指導もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや介助により口腔ケアができています。入れ歯は週に3回は洗浄したり、歯科医に相談して入れ歯の調整などもしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合わせた排泄誘導を行うことで、排泄用品の使用を減らせるように心がけている。	殆どの利用者は排泄は自立しているが、個々に応じて排泄のパターンを把握し、尿意などを逃がさず早めのタイミングでトイレ誘導することで失敗が少なくなり、紙パンツから布パンツに改善した事例がある。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつに週4回ヨーグルトを提供したり、水分摂取の声かけを行うとともに、毎日廊下を歩行したり、毎日2回の体操の時間をとるなど運動を取り入れている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施しており、入る時間帯や湯加減など本人の好みに合わせている。	11時から17時の間で、利用者の希望に沿って柔軟に支援している。毎日入浴する利用者もいるが、概ね2日に1回は入浴している。現在、入浴の拒否はなく、入居後に入浴が習慣になった事例もある。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも居室や居間で思い思いに休めるようにしている。夜間は照明を本人の好みの明るさにし、不眠の方には話し相手になったり、水分を提供し落ち着いて眠れるよう援助している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く薬の説明書に目を通し、薬の変更や追加についても業務日誌に記入し全員が把握している。服薬の際は、本人と薬を確認して手渡し、服用状況も確かめている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の役割(仕事)をもってもらったり、間食が好きな人にはおやつ以外にも自室に準備している。月の行事以外にも少人数で町内をドライブをしたり買物支援をしている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	週3回は屋外レクリエーションの時間を取り、町内で行きたい場所の希望を聞き出し、少人数での外出支援を行っている。また、自宅に帰りたい希望がある場合は家族に相談して協力してもらうようにしている。	利用者の希望に沿って毎日散歩したり、買物日に少人数で職員と一緒に出かけている。家族の協力で外出する機会を設けたり、季節に応じた花見や行楽などにも計画的に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭を自分で管理している方もいる。何かほしいものがあれば希望により買うようにしている。屋外レクリエーションの日程に合わせて一緒に買物に出かけている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や不安な時などに応じて家族と電話できるよう支援している。また、手紙を書いて近くの郵便局で投函する支援もしている。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居間は空調で温度チェックを行い、乾燥する時期には加湿器をつけるようにしている。玄関・食堂には季節の花を活けて和みの雰囲気づくりをしている。	小学校建物跡を利用しており、廊下は広くソファを置いたり、居間兼食堂は柱の間の空間を上手く活用し、家具の配置等に工夫している。壁面には利用者の作品やボランティアの絵手紙を貼ったり、花を活けるなど、利用者がゆっくりくつろげるようにしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファ以外にも玄関や勝手口に椅子を置き、思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れたものを持ってきてもらうよう入居時に説明している。位牌やCDコンポなどを持ち込んだり、持ち物をすっきり押し入れに片付ける方もいる。	居室はゆったり広く、ベッドやチェストが備え付けられ、押入れもあり整理整頓が行き届いている。写真や身の回りの小物類、仏壇やCDコンポなど、利用者は思い思いの品物を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーとなっており、自由に行き来できるようにしている。日常生活の中で本人ができることは自分でしてもらうよう声かけしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				